

題材構想 音楽科 第1学年

「にほんのうたをたのしもう」(全4時間計画)

題材の目標

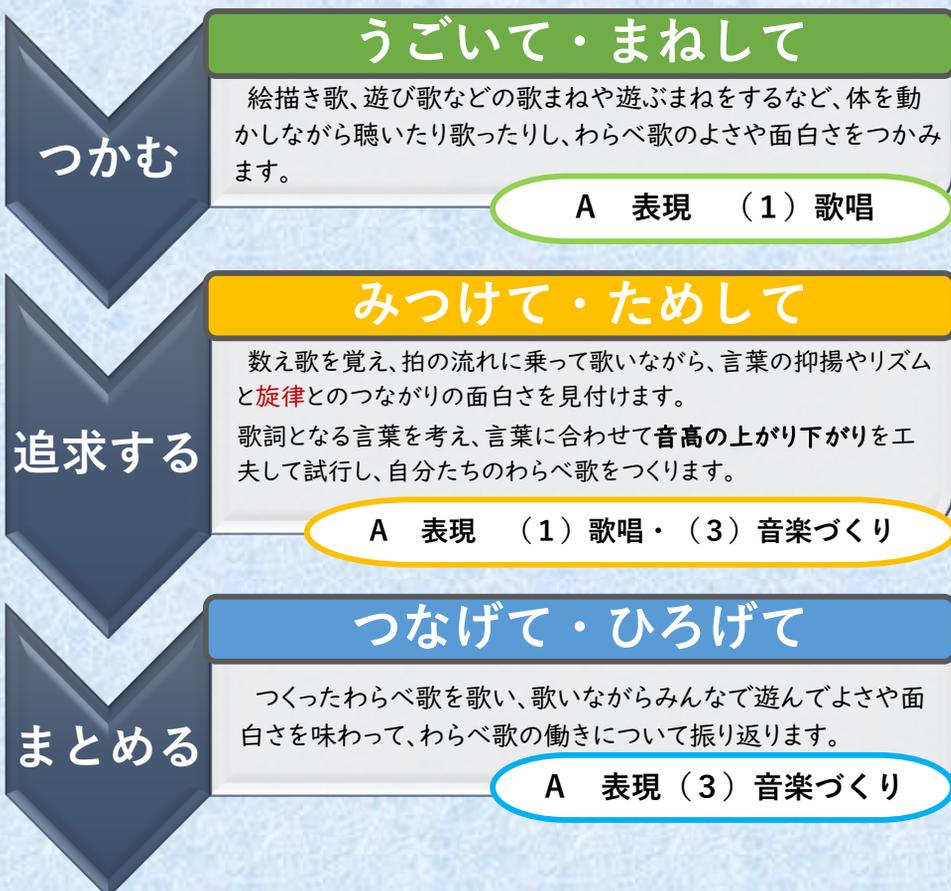
わらべ歌の曲想と音楽の構造との関わりに気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な技能を身に付ける。【知識及び技能】

わらべ歌の旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについてやどのように音を音楽にしていけるかについて思いをもつ。【思考力、判断力、表現力等】

わらべ歌の特徴を捉える学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や音楽づくりの学習に取り組み、わらべ歌に親しむ。【学びに向かう力、人間性等】

題材の流れ

生活や社会との関わり



クラスのオリジナルわらべ歌をつくって歌遊びをし、わらべ歌と遊びとの関わりを確かめながら、よさや面白さを実感する

♪ 本題材で活用する教材曲 ♪

- 「どれにしようかな (地域に伝わるわらべ歌)」
- 「さんちゃんが (絵描き歌)」 「おおなみこなみ (遊び歌)」
- 「いちじくにんじん (数え歌)」

うごいて・まねして

♪ 「さんちゃんが」「おおなみこなみ」のわらべ歌と 出会う活動



これからある音楽を演奏します。何の音楽でしょう。

☆始めは楽器による旋律のみ聴かせ、次第に歌詞を付けて歌って聴かせることで、音や音楽への関心を高めます。



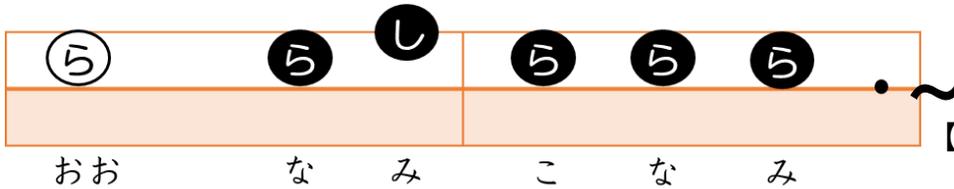
どこかで聴いたことがあるなあ。これは歌の音楽だね。

この音楽を歌いながら、長縄で遊んだことがあるよ。



音の高さの上がり下がりに合わせて手を動かしながら歌いましょう。

☆歌詞で歌った後、階名で歌い、使われている音や、音高の上がり下がりを確認します。



【楽譜の視覚化の例】
「おおなみこなみ」

「さんちゃんが」「おおなみこなみ」は、ラとソがたくさん使われているんだね。音の高さが上がったたり下がったりして、歌になるんだね。



♪ 遊びながらわらべ歌の旋律に親しむ活動



遊びの動きに合わせて歌を聴いて、どんなことに気付きましたか。

☆拍にのせてリズムよく歌詞を読み、リズムに合わせて遊びの動きを付けながら聴くようにします。



「ぼくたーぬき」の「た」を伸ばして歌うのは、タヌキの大きなおなかをかく動きにぴったりだよ。

「おおなみ」の「おお」も伸ばして歌うね。大きく縄を回す動きと合っているね。



音の高さの動きをミ・ソ・ラで歌いながら聴いてみましょう。

☆音高の上がり下がりをおぼえながら鑑賞することで、旋律のよさや面白さを実感させます。



「ぐるりとまわして」のところは言葉の細かいリズムに合わせてラ・ソ・ミ・ソと回るように動いているね。

「くちをとんがらかして」からは、ラとソだけで歌われているね。音の上下には何か決まりがあるのかな。



歌に合わせてお絵かきや縄遊びをしたら、動きと音楽が合っていて楽しいな。言葉を伸ばしたり縮めたり、言葉に合わせて音の高さを変えたり、遊びながら歌うことができたりするところがわらべ歌の面白さだね。



みつけて・ためして

♪ 言葉から音楽が生まれる過程を体感する活動



玉入れの球を数えたり、お風呂で数を数えたりするときのように、数を数えてみましょう。

☆生活の場面を想起させ、生活の中で自然に音楽とつながっていることに気付かせます。



いーち、にーい、さーん、しーい
...

あれ？音の高さが上がったり下がったりしているよ。歌になっているんだね。



| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|-----|
| ら | そ | ら | そ | ら | そ | ら | そ | ら | ... |
| い | ち | に | い | さ | ん | し | い | ご | ... |



ラとソを入れ替えて歌うとどうなるかな。

ラとソが反対になると、言葉と合わない感じがするな。



☆音高の上下を入れ替えて試して歌い、言葉の抑揚と音程との関わりに気付かせるようにします。



言葉と音の高さには関係がありそうだね。おもしろいな。

♪ わらべ歌の歌詞を考え、節をつくる協働的な活動



四つの音の言葉だと、歌いやすいね。

言葉の意味がつながるようにしたいな。



| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| そ | ら | ら | そ | → | そ | そ | そ | そ |
| あ | し | た | は | | い | ち | に | ち |
| ら | そ | ら | そ | → | そ | ら | ら | ら |
| う | き | う | き | | え | ん | そ | く |



言葉に合わせて音の高さの上がり下がりを試してみましょう。



「うきうき」はラとソを繰り返したらどうかな。

音の高さの上がり下がりをお互い反対にして試してみようよ。どちらが言葉に合うかな。



言葉をつなげると、節のまとまりができるね。言葉の音に合わせて音の上がり下がりをお互い反対にして試したら、面白い歌ができたよ。同じ音が続くところは、言葉に合った音の高さを見つけて、もっと面白くしたいな。

☆対話と音による試行を往還させながら表現をつなげ、協働してつくることによって、音楽と言葉とのつながりを実感させます。



つなげて・ひろげて

♪ グループの工夫を伝え、一つの音楽にまとめる活動

☆つくった音楽を可視化して、グループの工夫を共有します。

♪ にほんのうたをたのしもう ♪
1ねん 3くみのわらべうた

◇ ことばにあった音のあがりさがりをみつけよう

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| あ | あ | ん | ば | ん | |
| い | い | ん | げ | ん | |
| う | う | め | ぼ | し | |
| え | え | り | ん | ぎ | |
| お | お | い | し | い | ね |



音の高さを手を動かして示しながら、まねして歌ってみましょう。

どの言葉も、音の高さが言葉とぴったり合っていて歌いやすいね。



自分たちの工夫がクラスのわらべ歌の中に入っていてうれしいね。



みんなのわらべ歌をもっと楽しくするために、どんな工夫が考えられますか。

「さんちゃんが」で習った弾むリズムで歌ってみたいな。



☆グループでつくった旋律を一つの音楽にまとめ、全員で歌って体験することで、追求した音楽のよさや面白さを実感しながら味わえるようにします。

♪ クラスのわらべ歌を歌って遊ぶ活動



あんパンは丸いから、体の上で大きく丸をつくろうよ。

「おいしいね」は、最後の「ね」でポーズを決めよう。



☆身振りや手振りなどの動きや、歌い方（斉唱、二組に分かれて呼びかけ合うように等）のアイデアを出し合い、全員でオリジナルわらべ歌を楽しみます。

【わらべ歌を楽しむアイデアの例】

- ・グロッケンを用いた簡単な伴奏（拍に合わせてラとミの音を繰り返す）を付けて歌う。
- ・部分的にサイレントシンギングをし、発声した時のタイミングが合う感覚を楽しむ 等



☆拍にのって楽しく活動しながら、歌と動きが合う感覚や、友達と声を合わせて歌う一体感を十分に味わうことができます。

わらべ歌は、言葉のもつ自然な音や響きから生まれたんだね。みんなで歌って遊ぶと声や動きを合わせることができて楽しいな。もっとわらべ歌を知って遊びたいな。



題材構想 音楽科 第3学年

「ちいきにつたわる音楽でつながろう」(全5時間計画)

題材の目標

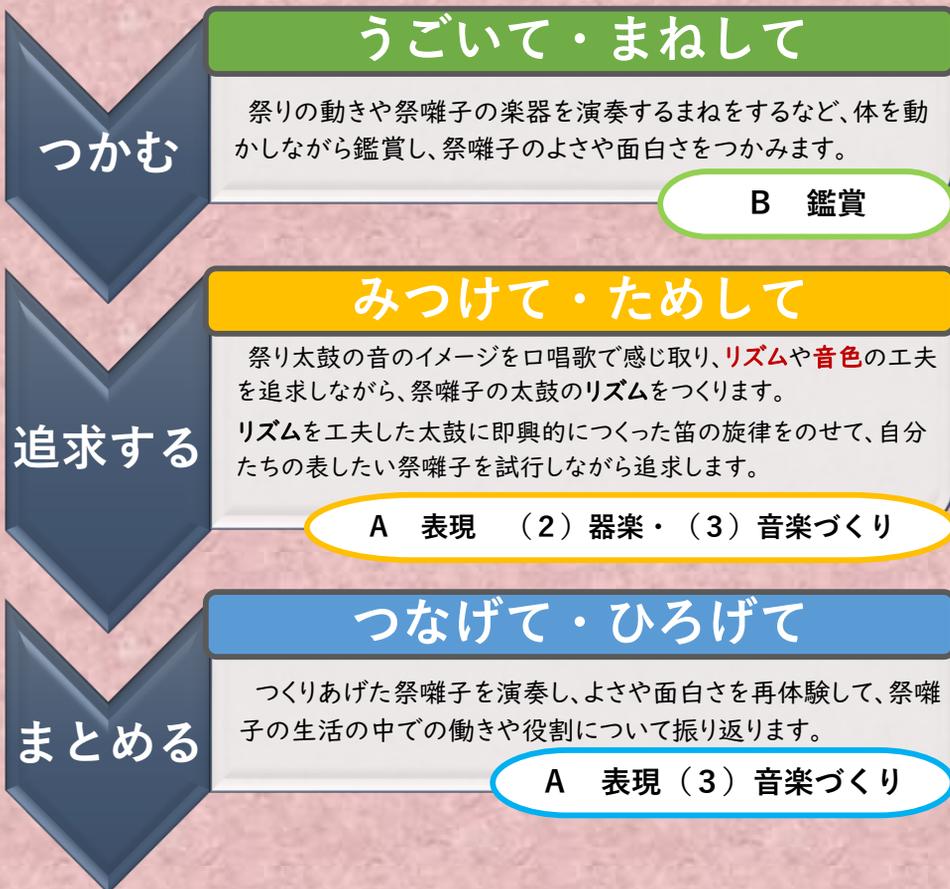
祭囃子の曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付くとともに、思いや意図に合った音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。【知識及び技能】

祭囃子の音色、リズムなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさを見いだしながら曲全体を味わって聴いたり、楽器の特徴を生かしてどのように演奏するかについて思いや意図をもったり、即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得たりする。【思考力、判断力、表現力等】

祭囃子の特徴を捉える学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞や器楽、音楽づくりの学習に取り組み、祭囃子に親しむ。【学びに向かう力、人間性等】

題材の流れ

生活や社会との関わり



出会う

発見する

確かめる

音楽と祭りとの関わり

グループの太鼓のリズムをつなげて、一つの祭囃子の音楽にまとめて演奏し、音楽と祭りとの関わりを確かめながら、よさや面白さを実感する

♪ 本題材で活用する教材曲 ♪

「地域の祭りのお囃子」

「祇園囃子」 「ねぶた囃子」 「神田囃子『投げ合い』」

うごいて・まねして

♪「祇園囃子」「ねぶた囃子」を聴き比べる活動



祇園囃子はゆったりとしているね。
使われている楽器は同じなのに、どうしてだろう。

ねぶた囃子は踊りたくなる感じがするよ。



それぞれ、お祭りのどんな
場面が思い浮かびますか。

☆山鉦を引く動きや、跳人の踊りを
写真や映像で示し、音楽と動き
との関わりについて関心をもたせ
ます。



跳人の動きを思い浮かべながら聴いたら、太鼓の
弾むようなリズムとぴったり合っていたよ。



♪「神田囃子『投げ合い』」を聴く活動

| 拍 | 一 | 二 | 三 | 四 | 五 | 六 | 七 | 八 |
|---|---|----|----|----|---|----|---|----|
| | 天 | テテ | ツク | ツク | 天 | スケ | 天 | ヤー |

【締太鼓口唱歌の例】

赤字（天、テテ、スケ）
黒字（ツク、ヤー）

打つ
休む



太鼓のリズムを言葉で表したも
のを「くちしょうが口唱歌」といいます。

☆口唱歌について知らせ、歌ったり
リズムを打ったりして、曲の感じを
つかめるようにします。

繰り返し歌ったり、リズムを打ったりしたら、にぎやか
な曲の感じがイメージできたよ。



口唱歌を歌ったり、リズムを打っ
たりしながら聴いてみましょう。

☆口唱歌を歌ったり、リズムを
打ったりしながら鑑賞することで、
曲のよさや面白さを実感させます。



太鼓のリズムは繰り返され
ていて、祭りに参加してい
る人を盛り上げている感じ。

曲に合わせて太鼓のリズム
が打てた。実際に打つと気
分も盛り上がるね。例とは
少し違うリズムもあったな。



☆主体的に音楽のよさや面白さを見いだしながら、音楽と生活や
社会との関わりについて考える糸口をつかめるようにします。

みつけて・ためして

♪ 学習に臨む雰囲気をつくる導入での活動



| 拍 | 一 | 二 | 三 | 四 |
|---|----|----|----|----|
| ① | ドン | ドン | ドン | スン |

| 拍 | 一 | 二 | 三 | 四 |
|---|----|----|----|----|
| ④ | ドン | ドコ | ドコ | スン |

| 拍 | 一 | 二 | 三 | 四 |
|---|----|----|----|----|
| ② | ドン | ドコ | ドン | スン |

| 拍 | 一 | 二 | 三 | 四 |
|---|----|----|----|----|
| ⑤ | ドド | ンコ | ドン | スン |

| 拍 | 一 | 二 | 三 | 四 |
|---|----|----|----|----|
| ③ | ドコ | ドコ | ドン | スン |

【長胴太鼓口唱歌の例】

☆リズムパターンを口唱歌で示し、歌ったり打ったりしてリズムに親しむようにします。



太鼓のリズムを言葉で歌うと、どんな感じがしますか。

☆リズムと感じられるイメージを結び付け、ヒントとして音楽づくりの発想を得られるようにします。

「ドンドン」は、大きな太鼓らしい力強さを感じるね。



口唱歌を歌うと、太鼓のリズムや音の雰囲気が感じられるね。



♪ 表現のつなげ方を試行する協働的な活動

| 一 | 二 | 三 | 四 |
|----|----|----|----|
| ドン | ドン | ドン | スン |



| 一 | 二 | 三 | 四 |
|----|----|----|----|
| ドン | ドコ | ドコ | スン |



順番を入れ替えて打ってみましょう。感じが変わるかな。

| 一 | 二 | 三 | 四 |
|----|----|----|----|
| ドン | ドコ | ドコ | スン |



| 一 | 二 | 三 | 四 |
|----|----|----|----|
| ドン | ドン | ドン | スン |

ドコドコが続くと、話し掛けているみたいだね。

どっしりとしたリズムで終わる感じがするね。

交替するときに「ソレ」って掛け声をかけると、二人のタイミングが合うね。祭囃子を聴いたときにもいろいろな掛け声が聴こえたけれど、こういう役割があったんだね。



☆対話と音による試行を往還させながら表現をつなげ、協働してつくることによって、音楽と祭りとの関わりを実感させます。

つなげて・ひろげて

♪ グループの工夫を伝え、発表する活動

☆つくった音楽を可視化して、グループの工夫を共有します。

| | 拍 | 一 | 二 | 三 | 四 | 五 | 六 | 七 | 八 | |
|---|------------------------------|------------------|----|----|-------------------------|----|----|----|----|--|
|  | ① | ドン | ドン | ドン | スン | ドン | ドコ | ドコ | スン | |
|  | レ | はじめは太鼓でお話をしています。 | | | | | | | | |
| | ド | | | | | | | | | |
| | ラ | ○ | | ○ | | ● | | ● | | |
| | はずむリズムで変化をつけてみました。 | | | 三 | 四 | 五 | 六 | 七 | 八 | |
|  | ② | ドド | ンド | ドン | スン | ドン | ドン | ドン | スン | |
|  | レ | ○ | | | | | | | | |
| | ド | | ○ | | | | | | | |
| | ラ | | | | ● | | ● | ● | | |
| | 太鼓のはずむリズムを盛り上げるように、音を高くしました。 | | | | 太鼓の力強さが引き立つように、音をゆらしたよ。 | | | | | |



グループの太鼓のリズムを口唱歌で歌いながら打ってみましょう。

☆グループのつくったリズムを全員で体験しておくことで、音楽のよさや面白さを実感しながら味わえるようにします。



打ってみたら、グループのつくりたいお囃子がイメージできたよ。早く聴いてみたいな。



笛の旋律の音の上がり下がり
は太鼓のリズムの特徴に合うようにしたんだね。

♪ グループのお囃子をつなげて演奏する活動

☆グループのお囃子のよさや面白さから、お祭りの場면을想像し、各グループのお囃子をお祭りの始まりから終わりまでのストーリーに沿ってつなげるようにします。



「ねぶた囃子」でも、お祭りの場面に合わせて曲の感じに変化があったね。

☆一節ごとに交代して演奏したり、掛け声をかけながら調子を整えたりするなど、お祭りの音楽の一体感を十分体感できるようにします。



私たちのお囃子はゆったりとしたよさがあるから、お祭りの始まりの場面に合うかな。

祭囃子の曲の感じと、お祭りの場面にはつながりがあるんだね。自分の町内のお囃子でも確かめたり演奏したりしてみたいな。



「日本の音楽の秘密を見つけよう」(全5時間計画)

題材の目標

日本の音楽の曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解するとともに、思いや意図に合った音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。【知識及び技能】

日本の音楽の旋律や音階、拍などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさを見いだしながら曲全体を味わって聴いたり、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて、思いや意図をもったりする。【思考力、判断力、表現力等】

日本の音楽の特徴を捉える学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞や音楽づくりの学習に取り組み、日本の音楽に親しむ。【学びに向かう力、人間性等】

題材の流れ

生活や社会との関わり



音楽と仕事や自然などとの関わり

つかむ

うごいて・まねして

日本の民謡が生まれた背景にある仕事の動きや発声方法のまねをするなど、体を動かしながら鑑賞し、日本の民謡のよさや面白さをつかみます。
日本の子守歌の旋律の特徴を捉えて歌いながら、日本固有の音階について知識を得ます。

B 鑑賞

出会う

みつけて・ためして

「民謡音階」「都節音階」のそれぞれの特徴やそのよさや面白さを見付けます。どちらかの音階を選び、自分たちの表したい日本らしさをテーマとして、試行しながら旋律づくりをします。

A 表現 (3) 音楽づくり

発見する

つなげて・ひろげて

つくりあげた旋律を演奏し、よさや面白さを共有・共感して、日本の音楽の生活の中での働きや役割について振り返ります。

A 表現 (3) 音楽づくり

確かめる

追求する

まとめる

グループの日本の音階による旋律をつなげて、一つの音楽にまとめて演奏し、音楽と仕事や自然などとの関わりを確かめながら、よさや面白さを実感する

♪ 本題材で活用する教材曲 ♪

「八木節 (地域に伝わる民謡)」

「ソーラン節」「刈り干し切り歌」「江戸の子守歌」

うごいて・まねして

♪「ソーラン節」「刈り干し切り歌」を聴き比べる活動



仕事の動作をまねしながら聴いてみましょう。

☆ニシン漁の様子や、ススキを刈る様子を映像や写真で示し、動きをまねしながら聴くことで音楽と動きとのつながりに関心をもたせます。

「ソーラン」の繰り返しは、網を引く動きとぴったり合っているね。



「ハイハイ」「ドッコイショ」の掛け声で調子が整うんだね。



「刈り干し切り歌」は一息で音を伸ばして歌っているね。演歌歌手みたいにこぶしが効いているよ。

柄の長い鎌をつかって草を刈っているから、動きに合わせて声も引き伸ばしているのかな。



♪ 声の出し方をまねしながら聴き比べる活動



【刈り干し切り歌】歌詞譜の例



歌詞譜を見てどんなことに気付きましたか。

☆歌詞の言葉に沿って、音の高さや長さ、抑揚などを線で視覚化した歌詞譜を用いて、日本の音楽特有の発声に親しめるようにします。

音を長く引き伸ばして歌うところは、音の高さの変化がない場合と、細かく音の高さを変える場合があるね。



音の高さを細かく変えながら声を引き伸ばすところがとても面白くて、魅力があるね。

枯草の深い山の中、歌声で自分の居場所を知らせたそうですよ。



音の上がり下がりや節回しをまねして歌ってみましょう。

☆歌詞譜が表す音の高さや長さ、節回しの様子をまねして歌うことで、音楽のよさや面白さを実感できるようにします。



節回しをまねして歌ったら、明るい感じがしたよ。作業が楽しくなるように、声遊びをしていたのかな。

独特の歌い方は、相撲の呼び出しや、焼き芋売りの呼びかけに似ているね。声の魅力でお客さんを集めたのかな。



みつけて・ためして

♪ 表現したい思いや意図をもつために、五音音階からイメージを膨らませる活動

都節音階

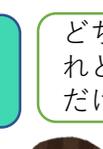
民謡音階

☆つかむ過程で学んだ音階を提示し、音階を構成する音を使った旋律遊びをして、音階から感じ取ったことをイメージできるようにします。



二つの音階にはどんな違いがありますか。

☆音階と感じられるイメージを結び付け、旋律づくりの発想を得られるようにします。



どちらも日本らしいよさがあるけれど、2番目と5番目の音が違うだけなのに、感じ方も違うね。



都節音階はしっとりとしていてお正月の音楽みたい。民謡音階は、それに比べて明るい感じがするね。



それぞれ、どんな場面に合った旋律ができるかな。

日本のお祭りについて音楽で伝えてみたいから、明るいイメージの民謡音階を使おうかな。



| 都 節 音 階 | 民 謡 音 階 |
|---------------------------|---------------------------------|
| しっとり、もの悲しい、箏の音、正月、神社、桜の花、 | のどかな、明るい、笛の音、仕事歌、かやぶき屋根の家、わらべ歌、 |

【イメージ宝箱】の例

☆児童から発言を引き出し、表にまとめます。

♪ 表現したいイメージに合った表現を試行する協働的な活動

ぼくの旋律の動きは、「山⇒のぼり」で、盛り上がる感じにしてみました。

日本に伝わる音階を使って旋律をつくると、日本らしさが感じられるね。もっと面白くして、日本のよさが伝わる音楽にしたいな。



私の旋律の動きは、「谷」だから反対になっているね。つなげると、呼びかけ合う仕事歌みたいだね。

☆対話と音による試行を往還させながら表現をつなげ、協働してつくることによって、音楽と生活や社会との関わりを実感させます。

つなげて・ひろげて

♪ グループの旋律を発表し合う活動

☆つくった音楽を可視化して、グループの工夫を共有します。

「タンタタ」のリズムを繰り返していました。

桜が開花する様子を表しています。

③は高い音を中心に使いました。

花盛りの桜の木をイメージしました。

☆音楽を形づくっている要素の工夫とイメージとをつなげることで、つくった音楽のよさや面白さを実感できるようにします。

【音楽を形づくっている要素の工夫】

【イメージ】



グループの旋律で特によかったところはどこでしたか。

☆グループの印象に残った旋律を全員で演奏してみることで、音楽のよさや面白さを実感しながら味わえるようにします。

③の高い音を使って細かいリズムを繰り返したところが、華やかでよかったです。



演奏してみたら、本当に桜の花がどんどん開いていく感じが分かったよ。

音楽で暮らしたり四季の様子が伝えられてうれしいね。



♪ グループの旋律をつなげて一つの音楽にまとめる活動

☆グループの旋律のよさや面白さから、日本らしさや旋律にふさわしい場面を想像しながら、各グループの旋律をつなげるようにします。



民謡音階でつくった旋律をつなげたら、祭囃子みたいで手拍子や合いの手を入れたくなったよ。

都節音階でつくった旋律をつなげて、日本の四季の移り変わりが表現できたよ。



☆電子楽器の機能を使い、箏や尺八などの和楽器の音色で旋律の範奏ができると、日本の音楽らしさをより実感できるでしょう。

日本の伝統的な音楽は、生活の場面と深くつながってつくられてきたんだね。これからも、日本の音楽をもっと知って大切にしたいな。



音楽科学習指導案(第1学年)

1 題材名 にほんのうたをたのしもう

教材曲 「さんちゃんが」「おおなみなみ」「いちじくにんじん」「どれにしようかな」

2 考察

(1) 題材観

本題材は、以下に示す学習指導要領の内容を受けて設定されたものである。

A 表現

(1) 歌唱 ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつこと。

イ 曲想と音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付くこと。

ウ 思いに合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。

(ア) 範唱を聴いて歌ったり、階名で模唱したり暗唱したりする技能

(3) 音楽づくり

ア 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)をできるようにすること。

(イ) どのように音を音楽にしていくかについて思いをもつこと。

イ 次の(ア)及び(イ)について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付くこと。

(イ) 音やフレーズのつなげ方の特徴

ウ 発想を生かした表現や、思い合った表現をするために必要な次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。

(イ) 音楽の仕組みを用いて、簡単な音楽をつくる技能

<本題材における思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素>

「旋律」

日本の歌であるわらべ歌は、子供の遊びや親子の触れ合いの中など生活の中で生まれ、人々に親しまれてきた。本題材では、友達と一緒に遊びながら、わらべ歌を歌ったりつくったりする楽しさを味わう活動を通して、我が国や郷土の音楽のもつ雰囲気や特徴に自然に親しむことができるように学習を進める。まず、絵描き歌や縄遊び歌、数え歌を通して、旋律の働きが生み出す面白さを感じ取り、旋律を構成する音の高さやリズムに変化を付けることで生まれる楽しさや面白さを味わいながら歌唱する。次に、わらべ歌の歌詞や言葉の抑揚に合った音の高さを自分たちで考えて試したりする協働的な活動を設定する。最後にクラスのわらべ歌をつくる場面で、つくった歌を歌いながらみんなで遊ぶ活動を取り入れる。一連の学習を通して、児童がわらべ歌の面白さを実感しながら、それを自分の生活の中に取り入れてみたいという思いをもたせるようにしたい。

(2) 指導方針

題材全体を通して、日本の伝統音楽であるわらべ歌のよさや面白さを実感しながら音楽活動に取り組むことができるよう、音楽と生活や社会との関わりに着目した学習が展開できるように支援する。

(つかむ過程では)

○音楽と歌詞の言葉との関わりに目を向けさせるため、歌詞の抑揚と旋律の音高を比較しながらわらべ歌に親しむ活動を設定する。

○音楽と遊びとの関わりに関心をもたせるため、お絵かきの手の動きや縄遊びの動きを取り入れながら繰り返し歌い、親しませるようにする。

○音楽と遊びとの関わりを手掛かりに、音楽と生活や社会との関わりに出会うことができるよう、気

付いたことを「歌詞のイメージ」「遊びの動き」「音楽を形づくっている要素」に分類してまとめ、互いの関連性について問い掛ける。

(追求する過程では)

- わらべ歌が、遊びの中で自然に生まれた音楽であることが意識できるよう、つかむ過程での学習を想起させ、歌い方を工夫することでどんなよさや面白さを感じられたかを問い掛ける。
- 言葉に焦点を当て、音楽との関わりを手掛かりに、思いや考えをもちながらわらべ歌づくりができるよう、言葉を伸ばしたり、アクセントなどの抑揚に変化を付けたりしながら言葉を唱える活動を設定する。

(まとめる過程では)

- 音楽と遊びとの関わりが実感できるよう、歌に合った身振りを考えて付けたりするなど、歌いながら遊ぶ方法についてアイディアを出し合いながら試し、全員でわらべ歌を楽しむ。
- 音楽と生活や社会との関わりについて、自分なりの考えをもつことができるよう、学んだことを生活の中でどのように生かしていきたいかという視点から題材全体を振り返る。

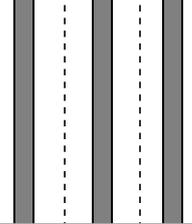
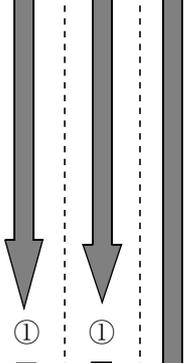
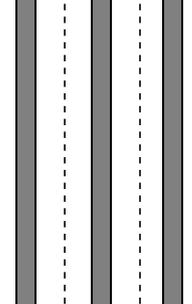
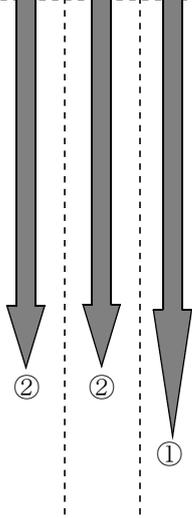
3 題材の目標

- わらべ歌の曲想と音楽の構造との関わりに気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な技能を身に付ける。(知識及び技能)
- わらべ歌の旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように歌うかについてやどのように音を音楽にしていくかについて思いをもつ。(思考力、判断力、表現力等)
- わらべ歌の特徴を捉える学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や、音楽づくりの学習に取り組み、わらべ歌に親しむ。(学びに向かう力、人間性等)

4 指導と評価の計画 (全4時間予定)

※評価の観点における丸数字は、全員の学習状況を記録に残す場面を表す。

| | | | | | |
|--------------|---------------|---|--|---------------|--|
| 評価 規 準 | 知識・技能 | ①わらべ歌の曲想と音楽の構造との関わりについて気付いている。(歌唱) ②思いに合った表現をするために必要な、範唱を聴いて歌ったり階名で模唱したり暗唱したりする技能を身に付けて歌っている。(歌唱) ③わらべ歌の旋律の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、音楽の仕組みを用いて、簡単な音楽をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。(音楽づくり) | | | |
| | 思考・判断・表現 | ①旋律を聴き取り、その働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。(歌唱) ②旋律を聴き取り、その働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように音を音楽にしていくかについて思いをもっている。(音楽づくり) | | | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | ①わらべ歌に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。(歌唱、音楽づくり) | | | |
| 時程 (次) | 過程 | ○ねらい めあて | | 評価の 観 点 | 活動の様子や児童の発言例 など |
| | | | | 知技 思 態 | |
| 第1時 | つかむ | ○わらべ歌「さんちゃんが」「おおなみなみ」を聴き、歌まねや遊ぶまねをしながらよさや面白さを感じ取る活動を通して、わらべ歌に関心をもつ | | 知技 思 態 | 【児童の発言例】 ・お話しする言葉を使って、声を伸ばしたり、声の高さを高くしたり低くしたりするとな |

| | | | |
|--------------------------------------|---|--|---|
| | <p>ことができるようにする。</p> <p>わらべうたをきいたりあそんだりして、おもしろさを見つけよう。</p> <p>題材の課題 わらべうたであそんだり、じぶんたちのわらべうたをつくったりして、わらべうたとなかよしになろう。</p> |  | <p>んだか歌みたいになって楽しいね。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おおなみこなみ」は、縄の動かし方に合わせて歌の感じも変わっておもしろいな。どうして感じが変わるのかな。 |
| <p>第2時 〜 第3時</p> <p>追求する</p> | <p>○数え歌「いちじくになじん」を歌い、前時に学習したわらべ歌のよさや面白さを想起しながら旋律の特徴を捉えることを通して、わらべ歌を歌うことができるようにする。</p> <p>わらべうたのおもしろさのひみつを見つけてうたおう。</p> |  | <p>【活動中の児童の発言例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数を数える言葉は、ラソの二つの音が上がったり下がったりして歌みたいに聴こえるね。 ・「いちじくになじん」を一節ずつ交互に歌ったら呼び掛けっこみたいで楽しいね。 |
| | <p>○前時まで学習したわらべうたの旋律の特徴を生かし、わらべうたの歌詞を考え、言葉に合った音の高さを探る活動を通して、わらべうたの旋律をつくることができるようにする。</p> <p>おもしろさのひみつをつかって、わらべうたをつくろう。</p> |  | <p>【活動中の児童の発言例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交互に歌う呼び掛けっこが楽しかったから、呼び掛け遊びになるような数え歌をつくろうかな。 ・言葉のもっている音の上がり下がり、旋律の音の上がり下がりはつながっているね。 |
| <p>第4時</p> <p>まとめる</p> | <p>○わらべ歌の歌詞や旋律のアイデアを出し合ってクラスのわらべ歌をつくり、歌遊びをする活動を通して、わらべ歌のよさや面白さを味わうことができるようにする。</p> <p>クラスのオリジナルわらべうたをつかって、うたあそびでたのしもう。</p> |  | <p>【振り返りにおける児童の記述例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お友達がつくったわらべ歌を、みんなで交互に歌ってみたら、呼び掛け合いになって楽しいな。この歌に合った遊びを考えてみんなで歌って遊びたいな。 ・自分たちのつくったわらべ歌がみんなで歌えてうれしい。休み時間にもつくったわらべ歌で遊んでみたいな。 ・他にはどんなわらべ歌があって、どんな遊びがあるのかな。もっと知りたいな。 |

5 本時の展開（1／4）

- (1) ねらい わらべ歌「さんちゃんが」「おおなみこなみ」を聴き、歌まねや遊ぶまねをしながらよさや面白さを感じ取る活動を通して、わらべ歌に関心をもつことができるようにする。
- (2) 準備 CD、歌詞を示した掲示物、ミニグロッケン、振り返りシート
- (3) 展開

| 学習活動 S：予想される児童の反応 | 時間 | 指導上の留意点及び支援・評価 ◇評価 ◎研究上の手立て |
|---|------------|--|
| <p>1 本時のめあてをつかむ</p> <p>○「さんちゃんが」「おおなみこなみ」を聴き、聴き取ったことや感じ取ったことを自由に発言する。</p> <p>S：どこかで聴いたことがあるような気がする。これは何かの歌だよ。</p> <p>S：（歌を聴いて）この歌を歌いながら縄で遊んだことがあるよ。</p> <p>○「おおなみこなみ」を身振りを付けたたり口ずさんだりしながら聴き、気付いたことを話し合い、本時の学習課題をつかむ。</p> <p>S：「おおなみ」と「こなみ」の言葉と音楽がぴったり合っているね。</p> <p>S：「ぐるりとまわして」は、ぐるぐる回るように言葉を速く歌っているね。</p> | <p>10分</p> | <p>・始めはグロッケンによる旋律の演奏のみで、次第に歌詞をつけて歌いながら聴かせることで、わらべ歌の音への興味関心を高めるようにする。</p> <p>・旋律と拍との関わりを感じ取れるよう、拍に合わせて手拍子を打ちながら聴くように促す。</p> <p>◎音楽と歌詞の言葉との関わりに気付くことができるよう、歌詞に合わせて身振りを付けたたり口ずさんだりしながらわらべ歌に親しむ活動を設定する。</p> |
| <p>[本時のめあて] わらべうたをきいたりあそんだりして、おもしろさを見つけよう。</p> | | |
| <p>2 音や音楽の雰囲気を感じ取り、雰囲気が醸し出す理由を探りながら音楽に親しむ。</p> <p>○わらべ歌の旋律に親しみ、絵描き歌「さんちゃんが」や遊び歌「おおなみこなみ」を楽しむ。</p> <p>S：「ぼくたぬき」の「た」を伸ばして歌うのは、たぬきの大きなおなかをかくためだね。</p> <p>S：最後の「ばってん」の音程が面白いね。</p> <p>S：「おおなみ」の「おお」も伸ばしているね。音が長く伸びると、体も大きく動かしたくなるね。</p> | <p>25分</p> | <p>◎音楽と言葉との関わりについて目を向けさせるため、歌詞のリズムと旋律のリズムを比較しながら聴く活動を設定する。</p> <p>◎音楽と遊びとの関わりについて関心をもたせるため、お絵かきの手の動きや歌に合わせた振り付け遊びの動きを取り入れながら繰り返し歌に親しむようにする。</p> <p>◎音楽と言葉や遊びとの関わりを見付けるため、気付いたことを「歌詞のイメージ」「体の動き」「音楽を形づくっている要素」に分類してまとめ、互いの関連性について問い掛ける。</p> |
| <p>3 題材の課題をつかむ。</p> <p>○「さんちゃんが」「おおなみこなみ」を歌ったり遊んだりしながら感じ取ったことや気付いたことを話し合う。</p> <p>S：お絵かきに歌がつくと、動きと音楽とがぴったり合っていて楽しい。他にはどんな</p> | <p>5分</p> | <p>・題材で追求することのイメージがもてるよう、体験的に親しむことで気付いたわらべうたの特徴を生かして、歌って遊んだり、自分たちのわらべ歌をつくったりすることを伝える。</p> <p>・感じ取ったことや気付いたことを確かめられるよう、歌ったり体を動かしたりしながら繰り返しわ</p> |

| | |
|---|--|
| <p>絵描き歌があるのかな。</p> <p>S：「おおなみこなみ」は振り付けの動きと歌詞と音楽がよく合っていて楽しく遊べたよ。</p> | <p>らべ歌に親しむ。</p> |
| <p>【題材の課題】</p> <p>わらべうたであそんだり、じぶんたちのわらべうたをつくったりしてわらべうたとなかよしになろう。</p> | |
| <p>S：自分たちのわらべ歌をつくるのは、とっても面白そうだな。どんな遊びに合う歌をつくろうかな。</p> <p>S：今日習った歌も、速さを変えて歌ってみたら遊び方が変わって面白そうだな。</p> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと 感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて 思いをもっている。 <発言・記述（思）></p> </div> |
| <p>4 学習のまとめをし、学びを振り返る。</p> <p>○題材で学んでいきたいことを含めて、わらべ歌の特徴についてまとめる。</p> <p>【児童の振り返り】</p> <p>☆わらべ歌は、遊ぶときに歌う歌が多いことが分かったよ。お話しする言葉に音の高さの上がり下がりをつけると、歌になるんだね。</p> <p>☆「おおなみこなみ」の体の動かし方が変わると歌の感じも変わって面白いな。遊びながらできた歌だから、歌と遊び方には関わりがあるんだね。</p> | <p>5 分</p> <p>・わらべ歌の特徴を「旋律」を手がかりにして見付けることができたことや、音楽の特徴と歌詞の言葉や遊びとの関わりについて考えたことを確認し、次時の学習につなげる。</p> |

5 本時の展開 (2/4)

- (1) ねらい 数え歌「いちじくにんじん」を歌い、前時に学習したわらべうたのよさや面白さを想起しながら旋律の特徴を捉えることを通して、わらべ歌を歌うことができるようにする。
- (2) 準備 歌詞を示した掲示物、ミニグロッケン、振り返りシート
- (3) 展開

| 学習活動 S：予想される児童の反応 | 時間 | 指導上の留意点及び支援・評価 ◇評価 ◎研究上の手立て |
|--|-----|---|
| <p>1 学習に臨む雰囲気をつくる。</p> <p>○「おおなみこなみ」を身振りを付けながら歌い、歌遊びをする。</p> <p>S：波の様子に合わせて体の動きの大きさや、声の大きさも変えたら面白いよね。</p> <p>S：わらべ歌を歌いながら遊ぶと、みんなの動きがそろうね。</p> | 10分 | <p>◎音楽と遊びや歌詞の言葉との関わりが実感できるよう、速さや強弱に変化を付けて繰り返し歌う活動を設定する。</p> <p>・旋律の動きが可視化できるよう、階名唱をしながら音高の上下に合わせて手の高さを上下させるなど、体の動きを伴った活動を設定する。</p> |
| <p>2 本時のめあてをつかむ。</p> | 3分 | <p>・前時にわらべ歌で遊んだ学習を想起し、つかんだわらべ歌のよさや面白さを確認する。</p> |
| <p>[本時のめあて] わらべうたのおもしろさのひみつを見つけてうたおう。</p> | | |
| <p>3 思いに合った表現にするために、音楽を形づくっている要素と関連付けながら表現を探る。</p> <p>○数を数える場面を想起しながら、数の数え方を試す。</p> <p>S：玉入れの数の数え方は、ラとソの二つの音が上がり下がりしていて、歌になっているんだね。</p> <p>○「いちじくにんじん」を歌う。</p> <p>S：「さんちゃんが」みたいに弾むリズムで楽しく数えられるね。</p> <p>S：二つのグループで交互に歌うと、呼び掛けっこをしているみたいで楽しいね。</p> <p>○即興的な伴奏を加えて、旋律を歌う。</p> <p>○いろいろな歌い方を試したり、音を重ねたりして気付いたわらべ歌のよさや面白さについて話し合う。</p> <p>S：数え歌は、言葉のリズムが面白い。「いちじくにんじん」は、野菜の名前で一、</p> | 25分 | <p>◎音楽と言葉との関わりを意識することができるよう、生活の中で数を数えた経験を想起させる。</p> <p>・数え方そのものが数え歌になっていることに気付くことができるよう、数え方を階名で歌って確かめる。</p> <p>・わらべ歌の面白さの秘密に迫れるよう、全員で声を合わせて斉唱したり、二つの組に分かれて交互に歌ったりするなど歌い方に変化を付けて親しませる。</p> <p>・呼び掛け合いの楽しさが存分に味わえるよう、始めに教師が呼びかけ、児童が全員で声を合わせて答える形で歌い、慣れてきたら二つの組に分かれて交互に歌うなど変化を付けて親しませる。</p> <p>・拍を感じ取って歌うことができるよう、拍に合わせてラとミの音を交互に繰り返した伴奏を加える。</p> <p>・旋律を歌うグループ、伴奏を加えるグループ、聴くグループの三つのグループに分かれ、役割を分担しながら演奏させ、多様な表現に親しむようにする。</p> <p>・気付いたよさや面白さを自分たちのわらべ歌づくりに生かせるよう、印象に残った表現を取り上げ、全体で演奏してよさや面白さを実感させる。</p> <p>◎音楽と言葉や遊びとの関わりに気付くことができるよう、いろいろな歌い方で歌ったことを振り返り、</p> |

| | |
|--|--|
| <p>二、三 …と数えたけれど、違う言葉でも考えられそうだね。</p> <p>S：伴奏を重ねると、みんなで声をそろえて歌うことができ、歌がもっと面白くなったね。呼び掛け合ったり、伴奏をつけたり、歌い方にいろいろな工夫ができるところが、わらべ歌のおもしろさだね。</p> | <p>そのよさや面白さについて問い掛ける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇思いに合った表現をするために必要な、範唱を聴いて歌ったり階名で模唱したり暗唱したりする技能を身に付けて歌っている。 〈演奏聴取（技）〔記〕〉</p> <p>◇旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。 〈発言・記述（思）〔記〕〉</p> </div> |
| <p>4 学習のまとめをし、学びを振り返る。</p> <p>【児童の振り返り】</p> <p>☆呼び掛け合って歌うと、歌でみんなが自然に仲良くなれるね。</p> <p>☆伴奏を入れると、みんなの声がよくそろって気持ちもひとつになるね。</p> | <p>10 分</p> <p>・呼び掛け合うように歌ったり、伴奏を加えて歌ったりすることで、わらべ歌の面白さの秘密を見つけて歌うことができたことを確かめ、もっと試してみたいことを問い掛け、本時の学習をまとめる。</p> |

4 本時の展開 (3/4)

- (1) ねらい 前時まで学習したわらべ歌の旋律の特徴を生かし、遊び歌の歌詞を考え、言葉に合った音の高さを探る活動を通して、わらべ歌の旋律をつくることができるようにする。
- (2) 準備 歌詞を示した掲示物、ミニグロッケン、ワークシート、振り返りシート
- (3) 展開

| 学習活動 S：予想される児童の反応 | 時間 | 指導上の留意点及び支援・評価 ◇評価 ◎研究上の手立て |
|---|-----|--|
| <p>1 学習に臨む雰囲気をつくる。</p> <p>○「いちじくにんじん」を様々な歌い方で歌う。</p> <p>S：交互に歌うと呼び掛けっこみたいで楽しいね。</p> <p>S：伴奏を付けて歌うと、声ときれいな音が重なり合ってもっと楽しく歌えるね。</p> | 7分 | <p>・わらべ歌のよさや面白さを確認できるよう、いろいろな歌い方ができたことを想起させ、歌い方に変化をつけて歌い遊ぶ楽しさを感じ取らせる。</p> |
| <p>2 本時のめあてをつかむ。</p> | 3分 | <p>◎わらべ歌が、遊びの中で自然に生まれた音楽であることを確認し、音楽と遊びとの関わりに着目できるよう、前時までの学習を想起させ、言葉に節をつけて唱えることでどんなよさや面白さが感じられたかを問い掛ける。</p> |
| <p>[本時のめあて] おもしろさのひみつをつかって、わらべうたをつくろう。</p> | | |
| <p>3 思いに合った表現にするために、音楽を形づくっている要素と関連付けながら表現を探る。</p> <p>○四人グループになり、あいうえおの歌の歌詞を考え、音の高さの変化を試しながら旋律をつくる。</p> <p>S：「いちじくにんじん」は食べ物だったけど、他の言葉を集めてみたい。拍の流れに乗って歌うには、四音のリズムが良さそうだね。</p> <p>S：言葉によって、自然な音の上がり下がりがあるって、旋律の音の上がり下がりも変わるね。いろいろ試してみよう。</p> <p>○中間発表を行う。</p> <p>S：交互に歌うと、呼び掛け合っているみたいで楽しいね。自分たちもやってみたい。</p> <p>S：言葉に合った音の上がり下がりを見付</p> | 30分 | <p>◎言葉に焦点を当て、音楽との関わりについて思いや考えをもちながらわらべ歌づくりができるよう、いくつかの四音でできた言葉を提示し、言葉の抑揚に合わせた音の高さを探る活動を設定する。</p> <p>◎音楽と遊びとの関わりについて発見しながらわらべ歌づくりができるよう、歌に合わせてポーズをとるなどして、遊びながら楽しく歌うようにする。</p> <p>・活動が滞っているグループには、「いちじくにんじん」の歌詞の中の一部だけ違う言葉に置き換えて試して歌うように促す。</p> <p>・グループ間を巡視しながら児童が歌う旋律を聴き取り、教師がワークシートに階名を記入して、音の上がり下がり可視化できるようにする。</p> <p>・それぞれのグループのわらべ歌づくりに生かせるよう、活動中に感じとったよさや面白さを伝え合う。</p> <p>・活発に交流できているグループを取り上げてわらべ歌を発表させ、全員でまねして歌うことで音楽のよさや面白さを共有・共感させる。</p> |

| | |
|---|--|
| <p>けると、自然な歌になるね。いろいろな歌い方を試したり、伴奏を入れたりできそうでもっと楽しくなりそうだな。</p> | <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>◇旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように音を音楽にしているかについて思いをもっている。〈観察・演奏聴取（思）〉</p> </div> |
| <p>4 学習のまとめをし、学びを振り返る。 【児童の振り返り】 ☆言葉を選び、言葉のもっている自然な音の高さに合わせて音の高さを変えたら、楽しい歌になった。わらべ歌は、遊びながら楽しくつくることが分かった。 ☆わらべ歌に合わせて、いろいろな遊びが考えられそうだね。</p> | <p>5 分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わらべ歌の歌詞を考え、言葉の抑揚に合わせて音高の上がり下がり工夫することで、わらべ歌の旋律をつくることができたことを確かめ、もっと工夫してみたいことを問い掛け、本時の学習をまとめる。 ◎ 音楽と遊び、言葉との関わりを意識しながら、音楽のよさや面白さを実感できるよう、各自でつくったわらべ歌の工夫点を問い掛け、ワークシートに記入させる。 |

5 本時の展開 (4/4)

- (1) ねらい 言葉の抑揚に合った音高を探ってわらべ歌をつくり、歌遊びをする活動を通して、わらべ歌のよさや面白さを味わうことができるようにする。
- (2) 準備 歌詞を示した掲示物、ミニグロッケン、ワークシート、振り返りシート
- (3) 展開

| 学習活動 S：予想される児童の反応 | 時間 | 指導上の留意点及び支援・評価 ◇評価 ◎研究上の手立て |
|--|-----|--|
| <p>1 学習に臨む雰囲気をつくる。</p> <p>○「いちじくにんじん」を、手遊びをしながら歌う。</p> <p>S：みんなで声をそろえて歌ったり、呼び掛けっこをしたりできて楽しいね。</p> <p>S：「いちじく」はソラソソで歌うけれど、「いんげん」はソラソソよりもラソソソの方が自然だね。</p> | 7分 | <p>・歌うことを楽しみながら数え歌に親しむことができるよう、全員で斉唱したり、二つの組に分かれて交互に歌ったりして、歌い方に変化を付けながら繰り返し歌う活動を設定する。</p> <p>◎音楽と言葉との関わりを実感することができるよう、数え歌に合う言葉を出し合い、即興的に試して歌い、言葉の自然な抑揚と旋律の音高の上下が関わり合っていることを確かめる。</p> |
| <p>2 本時のめあてをつかむ。</p> | 3分 | <p>◎音楽と遊びとの関わりに着目できるよう、前時までの学習を想起させ、各自でつくったわらべ歌の旋律にどんな工夫をしたかを問い掛ける。</p> |
| <p>[本時のめあて] クラスのオリジナルわらべうたをつくって、うたあそびでたのしもう。</p> | | |
| <p>3 各グループでつくった旋律を発表してつなぎ、表現の高まりを共有・共感する。</p> <p>○発表するグループの後についてみんなで歌い、よさや面白さを確かめるようにする。</p> <p>S：繰り返し歌うと、言葉と音の高さがよく合っていることが分かるね。</p> <p>S：言葉のもっている音の高さとはぴったりではないところもあるけれど、音の高さを工夫すると、はっきりさせたいところが目立って聴こえるね。</p> <p>○クラスのわらべ歌を歌いながら遊ぶ。</p> <p>S：呼び掛け合って歌うと楽しいね。</p> <p>S：歌っているときは立ち上がって、だんだん歌う人数を増やしていくと面白い動きになるね。歌いながら、立つタイミングも合わせられるんだね。</p> | 30分 | <p>・発表者と聴き手がお互いにわらべ歌の旋律のよさや面白さを実感できるよう、グループ→全員の順に繰り返し歌って確かめるようにする。</p> <p>◎音楽と遊びとの関わりが実感できるよう、歌に合わせた身振りを付けたり、拍に合わせて手拍子を打ったりしながら聴くよう促す。</p> <p>・アイディアのヒントとなるよう、「いちじくにんじん」を使った簡単な遊びを紹介する。</p> <p>◎音楽と遊びとの関わりについて実感できるよう、歌に合った身振りを考えて付けたりするなど、歌いながら遊ぶ方法についてアイディアを出し合いながら試し、全員でわらべ歌を楽しむ。</p> |

S : 言葉に合ったポーズをとって歌うのも楽しいよ。

S : 伴奏も入れられるかな。

◇わらべ歌の旋律の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、音楽の仕組みを用いて、簡単な音楽をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。

〈演奏聴取(技)〔記〕〉

◇旋律を聴き取り、その働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように音を音楽にしていくかについて思いをもっている。

〈演奏聴取(思)〔記〕〉

◇わらべ歌に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞や歌唱、音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。

〈観察・演奏聴取(態)〔記〕〉

4 学習のまとめをし、題材の学びを振り返る。

【児童の振り返り】

☆わらべ歌は、言葉のもっている自然な音の高さを生かして、言葉を伸ばしたり、音の高さを変えたりしてできていることが分かった。

☆歌いながら遊ぶと、みんなの気持ちがびったり合って楽しかった。一つの歌を歌うことで、声を合わせたり、動きを合わせたりできて、歌にはすごい力があるんだね。他のわらべ歌も覚えて、みんなで楽しく遊びたいな。

5 分

- ・日本に伝わるわらべ歌を聴いたり、歌ったり、自分たちのわらべ歌の旋律をつくって歌ったりすることで、わらべ歌に親しむことができたことを確かめ、わらべ歌について学んだこと、感じ取ったよさや面白さについて、また、学んだことをどのように生活に生かしていきたいかを問い掛け、題材全体をまとめる。

音楽科学習指導案（第3学年）

1 題材名 ちいきに伝わる音楽でつながろう

教材曲 「地域の祭りのお囃子」「祇園囃子」「ねぶた囃子」「神田囃子『投げ合い』」

2 考察

(1) 題材観

本題材は、以下に示す学習指導要領の内容を受けて設定されたものである。

A 表現

(2) 器楽 ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。

イ 次の(ア)及び(イ)について気付くこと。

(イ)楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり

ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。

(イ)音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能

(3) 音楽づくり

ア 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)をできるようにすること。

(ア)即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ること。

イ 次の(ア)及び(イ)について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて気付くこと。

(ア)いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴

ウ 発想を生かした表現や、思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。

(ア)設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能

B 鑑賞 ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと。

イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付くこと。

<本題材における思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素>

「音色」、「リズム」

地域に伝わる音楽は、そこに住む人の生活や文化の中で自然に生まれ、人々に親しまれてきた。本題材ではその中でも「祭囃子」を扱い、音色やリズムに着目しながら鑑賞し、地域に伝わる祭りの音楽に親しみながら、その雰囲気や特徴を感じ取ることができるように学習を進める。締太鼓のリズムを口唱歌で歌う体験を通して、気付いたり感じ取ったりした音楽のよさや面白さを生かしながら、より親しみをもってお囃子の音楽を聴いたり、太鼓のリズムを自分たちで考えて試したりする協働的な活動を設定し、児童が地域に伝わる音楽のよさや特徴を実感し、さらに積極的に地域の音楽と関わっていきたいという思いをもたせるようにしたい。

また、音楽づくりの学習では、口唱歌で示した五つのリズムパターンのつなげ方や演奏の仕方を協働しながら試行して、グループの祭太鼓のリズムをつくる。最後に各グループの祭太鼓をつなぎ、笛や鉦を重ねて演奏して、クラスの祭囃子を楽しむ活動を取り入れる。一連の学習を通して、児童が祭囃子のよさや面白さを実感しながら、それを自分の生活の中に取り入れてみたいという思いをもたせるようにしたい。

(2) 指導方針

題材全体を通して、地域に伝わる音楽である祭囃子のよさや面白さを実感しながら音楽活動に取り組むことができるよう、音楽と生活や社会との関わりに着目した学習が展開できるように支援する。

(つかむ過程では)

- 祭囃子への興味・関心を高め、より音楽を身近に感じられるよう、地域のお祭りに参加した経験や、祭囃子の太鼓の練習に参加した経験などを想起させながら、地域の祭りのお囃子を鑑賞する。
- 音楽と祭りとの関わりを手掛かりに、音楽と生活や社会との関わりに出会うことができるよう、祭りの動きや楽器を演奏する動きなど、体験的な鑑賞活動を設定する。
- 祭りの性格や目的などと音楽との関わりに関心をもてるよう、演奏場面の写真や映像を適宜提示し活用する。

(追求する過程では)

- 太鼓の音色やリズムのもつ雰囲気を感じ取り、円滑に表現を試行することができるよう、太鼓のリズムを口唱歌で示し、歌いながらリズムを打つ活動を取り入れる。
- 音楽と祭りとの関わりを手掛かりに、音楽や生活と社会との関わりを発見することができるよう、グループで工夫してつくった太鼓のリズムから、どんな祭りの場面がイメージできたかを問い掛ける。

(まとめる過程では)

- グループのお囃子を演奏し合う活動において、聴き手が体験的に聴き、よさや面白さを共有・共感できるように、発表者は太鼓のリズムの口唱歌や太鼓の打ち方を可視化したワークシートを提示しながら発表する。
- 音楽と祭りとの関わりを手掛かりに、音楽と生活や社会との関わりを確かめることができるよう、各グループのお囃子からどのような祭りの場面が想像できたかを問い掛け、祭りの始まりの場面から終わりの場面まで一連の流れに沿ってグループのお囃子をつなげて演奏する。
- 音楽と生活や社会との関わりについて、自分なりの考えをもつことができるよう、学んだことを生活の中でどのように生かしていきたいかという視点から題材全体を振り返る。

3 題材の目標

- 祭囃子の曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付くとともに、思いや意図に合った音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。(知識及び技能)
- 祭囃子の音色、リズムなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさを見いだしながら曲全体を味わって聴いたり、楽器の特徴を生かしてどのように演奏したいかという思いや意図をもったり、即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得たりする。
(思考力、判断力、表現力等)
- 祭囃子の特徴を捉える学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞や器楽、音楽づくりの学習に取り組み、祭囃子に親しむ。(学びに向かう力、人間性等)

4 指導と評価の計画 (全5時間予定)

※評価の観点における丸数字は、全員の学習状況を記録に残す場面を表す。

| | | |
|--------------|-------|---|
| 評価 規 準 | 知識・技能 | ①祭囃子の曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付いている。(鑑賞) ②祭囃子の楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりについて気付くとともに、思いや意図に合った音楽表現をするために必要な音色や響きに気を付けて打楽器を演奏する技能を身に付けて演奏している。(器楽) ③祭囃子の音色やリズムなどの特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて気付くとともに、発想を生かした表現をするために必要な、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付けて音楽をつくっている。(音楽づくり) |
|--------------|-------|---|

| | |
|---------------|---|
| 思考・判断・表現 | <p>①音色、リズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさを見いだし、曲全体を味わって聴いている。(鑑賞)</p> <p>②音色、リズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。(器楽)</p> <p>③音色、リズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ている。(音楽づくり)</p> |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ①祭囃子に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞や器楽、音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。(鑑賞、器楽、音楽づくり) |

| 時程 (次) | 過程 | ○ねらい めあて | 評価の観点 | | | 活動の様子や児童の発言例 など |
|-----------------|------|---|--------|--------|---|--|
| | | | 知技 | 思 | 態 | |
| 第1時 | つかむ | <p>○地域に伝わるお囃子や日本各地のお囃子を聴き、リズムを打ったりしながら音色やリズムの特徴を捉えることを通して、祭囃子に関心をもつことができるようにする。</p> <p>おはやしのよさやおもしろさのひみつを見つけよう。</p> <p>題材の課題 ちいきに伝わる音楽に親しみ、自分たちのおはやしをつくってえんそうして、音楽のはたらきややくわりについて考えよう。</p> | ↓ ① | ↓ ① | ↓ | <p>【児童の発言例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お祭りのにぎやかな感じは、太鼓や鉦のリズムと関係がありそうだ。 ・いろいろなお囃子を聴き比べると、速さや音の大きさが違うことが分かる。お祭りの動きや場面とお囃子の雰囲気には関係がありそうだ。 |
| 第2時 ～ 第4時 | 追求する | <p>○太鼓の口唱歌を歌い、前時に学習した祭囃子のよさや面白さを想起しながらリズムの特徴を捉えることを通して、太鼓を打つことができるようにする。</p> <p>たいこのリズムの特ちょうをとらえてえんそうしよう。</p> <p>○前時まで学習した祭囃子や太鼓の音色、リズムなどの特徴を生かして、お囃子のリズムのつなげ方を試す活動を通して、お囃子づくりの発想を得ることができるようにする。</p> <p>たいこのリズムのつなげ方を工夫して、おはやしをつくろう。</p> <p>○太鼓のリズムの特徴に合った打ち方を工夫して試し、ラ・ド・レの三つの音</p> | ↓ ② | ↓ ② | ↓ | <p>【活動中の児童の発言例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ドンドン」「ドンドコ」など、太鼓のリズムを言葉に置き換えて歌うと、リズムが分かりやすいね。 ・「ドドンコ」のリズムは弾む感じがして楽しいね。 <p>【活動中の児童の発言例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お祭りの始まりを告げるリズムをゆっくり大きく打って、力強い演奏にしたい。 ・踊りの場面のリズムをつくりたいから、「ドドンコ」のリズムを繰り返してみよう。 <p>【振り返りにおける児童の記述例】</p> |

| | | | | |
|------------|------------|--|--|--|
| | | <p>を使った笛の旋律と重ねて演奏する活動を通して、表したいお囃子の場面のイメージがもつことができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>太鼓のリズムの打ち方を工夫し、 笛の旋律と重ねてみよう。</p> </div> | | <ul style="list-style-type: none"> ・「ドンドン」をだんだん大きくなるように打つてみたら、お祭りの行列が近づいてくる感じがするね。 ・つくった太鼓のリズムに笛を重ねてみるともっとお祭りの雰囲気が出て楽しい。 |
| <p>第5時</p> | <p>まとめ</p> | <p>○太鼓のリズムと笛の旋律を重ねて演奏し、互いに聴き合うことを通して、祭囃子のよさや面白さを味わうことができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>みんなのオリジナル祭ばやしのよさや面白さを見つけよう。</p> </div> | | <p>【児童の振り返り記述例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・祭りの場面に沿ってみんなのお囃子をつないで演奏したら、オリジナルの祭囃子が出来上がった。地域の人たちも昔からこのようにして祭囃子を工夫してきたのかも知れない。自分の町内のお囃子はどのようにして伝えられてきたのか体験したり調べたりしてみたい。 |

5 本時の展開（1／5）

- (1) ねらい 地域に伝わるお囃子や日本各地のお囃子を聴き、リズムを打ったりしながら音色やリズムの特徴を捉えることを通して、祭囃子に関心をもつことができるようにする。
- (2) 準備 鑑賞用CD、祭りの様子が分かる写真や映像、口唱歌を示した掲示物、振り返りシート

(3) 展開

| 学習活動 S：予想される児童の反応 | 時間 | 指導上の留意点及び支援・評価 ◇評価 ◎研究上の手立て |
|---|------------|--|
| <p>1 本時のめあてをつかむ</p> <p>○地域の祭りのお囃子を聴き、聴き取ったことや感じ取ったことを自由に発言する。</p> <p>S：太鼓のリズムが楽しい。お祭りのにぎやかな感じが思い浮かびます。</p> <p>S：（太鼓のリズムに合わせて体を動かしながら聴く）</p> <p>○「祇園囃子」「ねぶた囃子」を聴き比べ、聴き取ったことと感じ取ったことを伝え合い、本時の学習課題をつかむ。</p> <p>S：地域の祭囃子と同じで、笛と太鼓と鉦の音がします。</p> <p>S：使われている楽器は同じなのに、それぞれのお囃子の感じが違うように感じます。どうしてだろう。</p> | <p>10分</p> | <p>・地域のお祭りに参加した経験や、祭囃子の太鼓の練習をした経験などを想起させ、祭囃子の音楽への興味・関心を高める。</p> <p>・聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりに着目することができるよう、「聴き取ったこと」「感じ取ったこと」を分類して板書にまとめ、両者の関わりについて問い掛け、気付きを促す。</p> <p>◎演奏場面の変化に目を向けられるよう、曲想の変化を捉えて確認する。</p> |
| <p>【本時のめあて】</p> <p>おはしりのよさやおもしろさのひみつを見つけよう。</p> | | |
| <p>2 音や音楽の雰囲気を感じ取り、雰囲気が醸し出す理由を探りながら鑑賞する。</p> <p>○使われている楽器の音色やリズムに着目して、「神田囃子『投げ合い』」を聴く。</p> <p>S：ゆったりとしているお囃子は、祭りの動きもゆったりとしているのかな。</p> <p>S：太鼓のリズムをひざで打ちながら聴いたら、同じリズムが繰り返されていることに気がきました。</p> <p>S：同じリズムでもだんだん盛り上がる感じがするのはどうしてだろう。</p> | <p>15分</p> | <p>◎音楽と祭りとの関わりについて着目できるよう、祭りの動きや楽器を演奏する動きなど、体験的な鑑賞活動を設定する。</p> <p>◎音楽と祭りの性格や目的などとの関わりについて関心をもたせるため、演奏される場面を想像しながら聴くよう促す。</p> <p>◎音楽と祭りの性格や目的、演奏される場面との関わりを見付けるため、気付いたことを「体の動き」「曲の雰囲気」「音楽を形づくっている要素」に分類してまとめ、互いの関連性について問い掛ける。</p> |
| <p>3 題材の課題をつかむ。</p> <p>○「神田囃子『投げ合い』」を聴いて、感じ取ったことや気付いたことを話し合う。</p> <p>S：みんながにぎやかに集まっている様子</p> | <p>15分</p> | <p>・題材で追求することのイメージがもてるよう、鑑賞を通して気付いたお囃子の特徴を生かして、太鼓を打つ活動をしたり、お囃子づくりをしたりすることを伝える。</p> |

| | |
|--|--|
| <p>は、繰り返される太鼓のリズムから感じ取れました。</p> <p>S：お囃子の音楽が、お祭りのワクワクする気分を高めているね。</p> <p>○題材の課題をつかむ。</p> | <p>・感じ取ったことや気付いたことを確かめられるよう、繰り返し鑑賞する。</p> |
| <p>【題材の課題】</p> <p>ちいきに伝わる音楽に親しみ、自分たちのおはやしをつくってえんそうして、音楽のはたらきややくわりについて考えよう。</p> | |
| <p>S：みんなが見つけたよさや面白さの秘密を意識して聴いたら、自分も同じように感じる事ができて楽しい。</p> <p>S：お祭りのワクワク感を高められるような太鼓のリズムを打ってみたい。</p> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇祭囃子の曲想及びその変化と音楽の構造との関わりについて気付いている。〈発言・記述（知）〔記〕〉</p> <p>◇音色、リズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさを見だし、曲全体を味わって聴いている。〈発言・記述（思）〔記〕〉</p> </div> |
| <p>4 学習のまとめをし、学びを振り返る。</p> <p>○題材で学んでいきたいことを含めて、祭囃子の特徴についてまとめる。</p> <p>【児童の振り返り】</p> <p>☆お囃子には笛・太鼓・鉦が使われていて、楽器のリズムがお祭りの雰囲気盛り上げていることが分かった。</p> <p>☆長胴太鼓の音色には、お祭りの力強さが表れていると思った。自分もお祭りを盛り立てるように太鼓を打ってみたい。</p> | <p>5 分</p> <p>・地域の音楽の特徴を「音色」や「リズム」を手がかりにして見付けることができたことや、音楽の特徴と地域の生活との関わりについて考えたことを確認し、次時の学習につなげる。</p> |

5 本時の展開 (3/5)

- (1) ねらい 前時まで学習した祭囃子や太鼓の音色、リズムなどの特徴を生かしてお囃子のリズムのつなげ方を試す活動を通して、お囃子づくりの発想を得ることができるようにする。
- (2) 準備 長胴太鼓、締太鼓、スネアドラム（響き線なし）、リズムパターンを口唱歌で示した掲示物、ワークシート、振り返りシート
- (3) 展開

| 学習活動 S：予想される児童の反応 | | 指導上の留意点及び支援・評価 ◇評価 ◎研究上の手立て |
|--|-----|---|
| <p>1 学習に臨む雰囲気をつくる。</p> <p>○五つのリズムパターン（口唱歌）を提示し、口唱歌を唱えながら手拍子でリズム打ちをする。</p> <p>S：「ドドンコ」のリズムは弾む感じが言葉からもわかるね。</p> <p>S：「ドンドンドン」のリズムは単純だけど体全体を使って打つと力強さが表せそうだな。</p> | 7分 | <p>◎リズムパターンごとにリズムから感じ取ったことを口唱歌の言葉と関連付けながら確かめ、つくりたいお囃子のリズムについてイメージがもてるようにする。</p> <p>◎太鼓の音色の雰囲気が想起できるよう、口唱歌を唱えながらリズムに親しむようにする。</p> |
| <p>2 本時のめあてをつかむ。</p> | 3分 | <p>・前時に太鼓を打った学習を想起し、同じリズムでも打ち方を変えると感じ方も変わることを確認する。</p> |
| <p>[本時のめあて] たいこのリズムのつなげ方を工夫して、おはやしをつくろう。</p> | | |
| <p>3 思いや意図に合った表現にするために、音楽を形づくっている要素と関連付けながら表現を探る。</p> <p>○二人組になり、お互いのリズムを即興的につなげて打つ。</p> <p>S：順序を入れ替えて「おはなし」するように打つと、感じが変わるね。</p> <p>S：「まね」で繰り返してつなげた時、お互いの打ち方に変化をつけると楽しいな。</p> <p>○四人組になり、それぞれのリズムをリレーして打つ。</p> <p>S：順番を入れ替えてみたら、二人組でやった時と同じように感じ方が変わった。真ん中が「まね」になるようにつないでみたらどうかな。</p> <p>S：同じリズムが続く「まね」のところは、最初は優しい音で打ち、次は力強い音で打ってみたら、だんだん近づいてくる感じがして面白いな。</p> <p>○どのようにつなげてお囃子の太鼓のリズムを表現するか、つなぎ方をグループで話し合い、表現を試す。</p> <p>S：どのつなげ方でも楽しいけれど、一</p> | 25分 | <p>・即興表現から太鼓のリズムのつなげ方の発想が生まれるよう、「おはなし」（呼びかけとこたえ）で違うリズムをつなげたり、「まね」（反復）で同じリズムを繰り返してつなげたりし、それぞれどんな感じがするかを比較しながら試行できるようにする。</p> <p>・太鼓のリズムのつなげ方の発想が膨らむよう、リレーの順番を入れ替えることで感じが変わるかどうかを試行するよう促す。</p> <p>◎口唱歌の言葉のもつイメージが打ち方の工夫に生かせるよう、つなげ方を口唱歌で歌って確かめながら、表現を試行するようにする。</p> <p>・即興表現から発想を得て、気に入ったつなげ方は、どのようなお囃子のイメージになったかを問い掛け、表現したい思いや意図をもたせる。</p> |

| | |
|--|---|
| <p>番気に入ったのは「おはなし」を2回続けたお囃子。みんなで集まってにぎやかにお話をしているお祭りの場面が想像できるから。</p> <p>○中間発表で互いに聴き合う。</p> <p>○各グループのお囃子の太鼓のリズムを発表する。</p> | <p>・気付いた他のグループのよさや面白さを自分たちのお囃子づくりに生かせるよう、印象に残った表現を取り上げ、全体で演奏してよさや面白さを実感させる。</p> <p>◎太鼓のリズムのもつ雰囲気を感じ取れるよう、各グループの表現を口唱歌で歌って確認しながら発表したり聴いたりする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◇音色、リズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ている。 <観察・演奏聴取(思)></p> </div> |
| <p>4 学習のまとめをし、学びを振り返る。</p> <p>【児童の振り返り】</p> <p>☆大きくゆっくり打つと力強いお囃子のリズムになった。大きな山車がゆっくり進む場面が想像できた。</p> <p>☆決めたつなげ方を、打ち方に変化をつけて打つてみたら、にぎやかなお祭りの行列がだんだん近づいてくる感じが表現できた。</p> | <p>10分</p> <p>・リズムのつなげ方を工夫することでお囃子の太鼓のリズムをつくって演奏することができたことを確かめ、もっと工夫してみたいことを問い掛け、本時の学習をまとめる。</p> <p>◎音楽と祭りとの関わりについて発見したことを自覚できるよう、グループで工夫してつなげた太鼓のリズムからどんな祭りの場面がイメージできたかを問い掛ける。</p> |

5 本時の展開 (5/5)

- (1) ねらい 太鼓のリズムと笛の旋律を重ねて演奏し、互いに聴き合うことを通して、祭囃子のよさや面白さを味わうことができるようにする。
- (2) 準備 長胴太鼓、締太鼓、鉦、リコーダー、ワークシート、振り返りシート
- (3) 展開

| 学習活動 S：予想される児童の反応 | | 指導上の留意点及び支援・評価 ◇評価 ◎研究上の手立て |
|--|-----|---|
| <p>1 学習に臨む雰囲気をつくる。</p> <p>○三つの音（ラ・ド・レ）を使い、リコーダーで即興的に旋律を演奏する。</p> <p>S：ラ・ド・レと音の高さが上がるように並べて吹くと、だんだん盛り上がる感じがするね。</p> <p>S：ドとレの2つの音を交互に並べて吹くと揺れる感じがして、重ねた時に太鼓のリズムがはっきりすると思うな。</p> | 5分 | <p>・表現したいお囃子のイメージを確認できるよう、音の並べ方（旋律の音高の動き）の違いによって感じ方が変わったことを確かめる。</p> |
| <p>2 本時のめあてをつかむ。</p> | 2分 | <p>◎お囃子の音楽が、お祭りの中で果たしている役割に着目できるよう、前時までの学習を想起させ、お囃子を演奏したり聴いたりすることでどんなお祭りの場面が想像できたかを問い掛ける。</p> |
| <p>[本時のめあて]</p> <p>みんなのオリジナル祭りばやしのよさや面白さを見つけよう</p> | | |
| <p>3 グループのオリジナル祭囃子を発表し、表現の高まりを共有・共感する。</p> <p>○発表するグループは、工夫した点（「ここを聴いてねポイント」）を伝えてから発表し、聴くグループはよいと思ったところや、祭りのどんな場面を想像したかを伝える。</p> <p>S：私たちの「ここを聴いてねポイント」は、太鼓のリズムを力強いイメージになるようにつなげたことと、太鼓のリズムの力強さが引き立つようにリコーダーの音を選んだところです。</p> <p>○各グループのお囃子をつなげ、締太鼓と鉦で合いの手を入れて演奏する。</p> <p>S：お祭りの始まりから終わりまでの場面を想像しながらみんなのお囃子をつなげたら、いつの間にか自分たちの祭囃子が出来上がっていた。昔の人もこんなふうにして祭囃子をつくって楽しんできたのかな。</p> | 30分 | <p>・演奏者と聴き手がお互いに工夫点を意識し、共有しながら演奏したり聴いたりできるよう、聴いてほしいポイントを明確にして伝えてから演奏するようにする。</p> <p>◎聴き手が演奏を体験的に聴けるよう、口唱歌や旋律の音の動きを示したシートを示しながら発表し、口唱歌で太鼓のリズムを歌いながら聴いたり、リズムを膝打ちしながら聴いたりできるようにする。</p> <p>◎音楽と祭りとの関わりについて実感できるよう、各グループのお囃子の発表から、どのような祭りの場面が想像できたかを問い掛け、祭りの始まりの場面から終わりの場面までの一連の流れに沿ってつなげて演奏する。</p> <p>◎つくったお囃子の演奏と締太鼓・鉦の合いの手が途切れなく演奏でき、祭りの雰囲気味わうことができるよう、役割を交替しながら演奏する。</p> |

S : にぎやかに盛り上がるお囃子を聴くと、自然に体が動いて踊りたくなった。どこかからお囃子が聴こえると、人がそこに集まってお祭りが始まったのかな。

◇祭囃子の音色やリズムなどの特徴について、それらが生み出すよさや面白さなど関わらせて気付くとともに、発想を生かした表現をするために必要な、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付けている。

＜演奏聴取（知・技）〔記〕＞

◇祭囃子に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞や器楽、音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。

＜観察・演奏聴取（態）〔記〕＞

4 学習のまとめをし、題材の学びを振り返る。

【児童の振り返り】

☆みんなと一緒に学習し、もっと面白くなる工夫をたくさん考えた。地域の人たちも同じように、演奏する場面に合わせてみんなで工夫をしながらお囃子を伝えてきたのではないかなと思った。自分の町内に伝わるお囃子も体験したり調べたりしてみたい。

8分

・各地域に伝わるお囃子を聴いたり、お囃子に使われている太鼓のリズムや笛の旋律を即興的につくって演奏することで地域に伝わる音楽に親しむことができたことを確かめ、地域の音楽について学んだこと、思いを新たにしたことについて、また、学んだことをどのように生活に生かしていきたいかを問い掛け、題材全体をまとめる。

音楽科学習指導案（第5学年）

1 題材名 日本の音楽の秘密を見つけよう

教材曲 「八木節」「ソーラン節」「刈り干し切り歌」「江戸の子守歌」

2 考察

(1) 題材観

本題材は、以下に示す学習指導要領の内容を受けて設定されたものである。

A 表現

(3) 音楽づくり

- ア 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)をできるようにすること。
 - (イ)音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。
- イ 次の(ア)及び(イ)について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて気付くこと。
 - (イ)音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴
- ウ 発想を生かした表現や、思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。
 - (イ)音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能

B 鑑賞

- ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと。
- イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。

<本題材における思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素>

「旋律」、「音階」、「拍」

日本に伝わる音楽には、1、2年生で学習してきたわらべ歌や、3、4年生で学習してきた郷土に伝わる祭囃子や民謡など、人々の生活の中から生まれ、守り伝えられてきた様々な音楽がある。本題材では、民謡や子守歌を鑑賞する学習を設定し、それらの音楽が生まれた背景に触れながら、声による表現の多彩さや面白さを感じ取る。感じ取ったことを生かして子守歌を歌いながら鑑賞し、日本の音楽で広く使われている五音音階の特徴に目を向ける。さらに、五音音階の音を用いて日本を紹介する旋律をつくる学習を進め、一連の学習を通して日本の音楽に親しみ、そのよさや面白さをもたらす秘密を探りながら、長い間受け継がれてきた伝統や文化への理解も深めていくようにする。

(2) 指導方針

題材全体を通して、日本の伝統音楽である民謡や子守歌のよさや面白さを実感しながら音楽活動に取り組むことができるよう、音楽と生活や社会との関わりに着目した学習が展開できるように支援する。

(つかむ過程では)

- 民謡や子守歌への興味・関心を高め、より音楽を身近に感じられるよう、わらべ歌や祭囃子の学習経験を想起させながら、郷土に伝わる民謡「八木節」を鑑賞する。
- 民謡と仕事や自然などとの関わりを手掛かりに、音楽と生活や社会との関わりに出会うことができるよう、仕事の動きや歌う時の体の使い方を模倣するなど、体験的な鑑賞活動を設定する。
- 民謡や子守歌の性格やその役割などに着目することができるよう、歌われる場面の写真や映像を適宜提示し活用する。

(追求する過程では)

- 民謡音階、都節音階の特徴や雰囲気を感じ取ることができるよう、音階の構成音を使った即興的な音楽遊びを取り入れる。

○音楽と生活や社会との関わりを発見しながら表現を追求することができるよう、個人やグループで工夫してつくった日本を紹介する旋律から、どんな場がイメージできたかを問い掛ける。

(まとめる過程では)

○グループの日本を紹介する旋律を演奏し合う活動において、聴き手が工夫点とそのよさや面白さを感じ取りながら聴けるよう、発表者は旋律づくりの音の動きを可視化したワークシートを提示しながら発表する。

○音楽と生活や社会との関わりについて確かめることができるよう、各グループの日本を紹介する旋律からどのような日本らしさや場が想像できたかを問い掛け、一連の流れになるようにグループの旋律をつなげて演奏する。

3 題材の目標

○日本の音楽の曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解するとともに、思いや意図に合った音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。(知識及び技能)

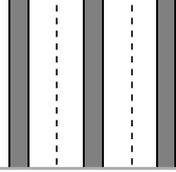
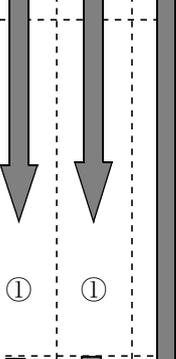
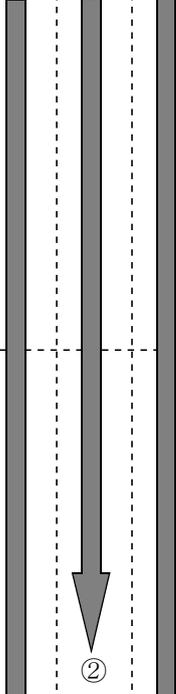
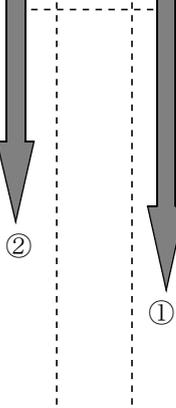
○日本の音楽の旋律、音階、拍などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさを見いだしながら曲全体を味わって聴いたり、音を音楽へと構成することを通してどのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて、思いや意図をもったりする。(思考力、判断力、表現力等)

○日本の音楽の特徴を捉える学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞や音楽づくりの学習に取り組み、日本に伝わる音楽に親しむ。(学びに向かう力、人間性等)

4 指導と評価の計画 (全5時間予定)

※評価の観点における丸数字は、全員の学習状況を記録に残す場面を表す。

| | | | | | | | |
|-----------------|---------------|--|---|-------|----------------|---|--|
| 評価 規 準 | 知識・技能 | ①日本の音楽の曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解している。(鑑賞) ②日本の音楽の旋律や音階、拍などの特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて理解するとともに、思いや意図に合った音楽表現をするために必要な、音楽の仕組みを用いて音楽をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。(音楽づくり) | | | | | |
| | 思考・判断・表現 | ①旋律や音階、拍を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさを見だし、曲全体を味わって聴いている。(鑑賞) ②旋律や音階、拍を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽への構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。(音楽づくり) | | | | | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | ①日本の音楽に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞や音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。(鑑賞、音楽づくり) | | | | | |
| 時程 (次) | 過程 | ○ねらい めあて | | 評価の観点 | 活動の様子や児童の発言例など | | |
| | | 知技 | 思 | 態 | | | |
| 第1時 ～ 第2時 | つかむ | ○「ソーラン節」「刈り干し切り歌」「八木節」を聴き、発声をまねたり、作業の様子をまねたりしながら民謡の特徴を捉えることを通して、日本に伝わる音楽に関心をもつことができるようにする。 | | 知技 | 思 | 態 | 【児童の発言例】 ・声を伸ばしながら音程に変化を付けて歌う節回しをまねしてみたら、楽しい感じがした。つらい作業が明るくなるように歌っていたのかな。 |

| | | | | |
|--------------------------------------|--|--|--|--|
| | | <p>民謡のよさや面白さの秘密を見つけよう。</p> <p>題材の課題 聴いたりつくったりしながら日本の音楽の秘密を見つけて、日本に伝わる音楽に親しもう。</p> |  | <ul style="list-style-type: none"> ・網を引くまねしながら聴くと、歌いながら引くタイミングが合うことが分かった。歌にはこのような働きもあるんだね。 |
| | | <p>○二つの「子守歌」を聴き比べたり口ずさんだりしながら、曲想を感じ取り、それぞれの旋律の特徴を捉えることを通して、五音音階について知ることができるようにする。</p> <p>日本の子守歌を歌いながら聴き、旋律のよさや面白さの秘密を見つけよう。</p> |  | <p>【活動中の児童の発言例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ旋律なのにミとラに♭を付けただけで雰囲気が変わるね。長調と短調みたいだね。 ・♭をつけると、どこかもの悲しい感じがする。子守歌なのに、なぜ悲しい感じがするのかな。 |
| <p>第3時 ～ 第4時</p> <p>追求する</p> | | <p>○前時までに学習した民謡音階、都節音階の特徴を生かし、それぞれの音階のよさや面白さを探る活動を通して、表現したい旋律について思いや意図をもつことができるようにする。</p> <p>音階を選び、音の上がり下がり工夫して、「日本を紹介する旋律」をつくろう。</p> <p>○つくった旋律をつなげて演奏し、「日本のうた」の旋律をグループごとにまとめる活動を通して、全体のまとまりを意識した音楽をつくるための思いや意図をもつことができるようにする。</p> <p>グループの「日本を紹介する旋律」をもっとよくするために、つなげ方を工夫しよう。</p> |  | <p>【活動中の児童の発言例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民謡音階のもつ独特の明るさを生かして旋律をつくってみたいな。隣り合った音に移動すると、より日本の歌らしくなる。 ・民謡や子守歌の節回しを生かして、細かく音が揺れるようにつくってみたらどんな感じがするかな。 <p>【振り返りにおける児童の記述例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の仕組みを使ってつなげ方を試したら、順番を入れ替えるだけで雰囲気が変わることが分かった。自分たちのイメージがより伝わるつなげ方を見付けたい。 |
| <p>第5時</p> <p>まとめる</p> | | <p>○グループの旋律を演奏し、互いに聴き合うことを通して、日本の音階による旋律のよさや面白さを味わい、伝統や文化について考えたことを話し合う。</p> <p>みんなのオリジナル「日本を紹介する音楽」のよさや面白さを見つけよう。</p> |  | <p>【児童の振り返り記述例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の音階の音の並び方には、和風を感じさせる秘密があることが分かった。自分たちのつくった旋律を和楽器で演奏したら、さらに日本らしく心が落ち着く音楽になりそう。 ・日本の四季の移り変わりや豊かな自然を音楽で表すことができて嬉しい。 |

5 本時の展開 (1/5)

- (1) ねらい 「ソーラン節」「刈り干し切り歌」「八木節」を聴き、発声をまねたり、作業の様子をまねたりしながら民謡の特徴を捉えることを通して、日本に伝わる音楽に関心をもつことができるようにする。
- (2) 準備 鑑賞用CD、民謡(仕事歌)の場面が分かる写真や映像、声の抑揚を示した楽譜、振り返りシート
- (3) 展開

| 学習活動 S：予想される児童の反応 | 時間 | 指導上の留意点及び支援・評価 ◇評価 ◎研究上の手立て |
|--|------------|---|
| <p>1 本時のめあてをつかむ</p> <p>○「八木節」を聴き、聴き取ったことや感じ取ったことを自由に発言する。</p> <p>S：演歌歌手の歌い方に似ていて、歌い方に特徴があるね。</p> <p>S：歌い始めの「ハアアアアア」の部分は、一息で長く伸ばして歌っているね。</p> <p>○「ソーラン節」「刈り干し切り歌」を聴き比べ、聴き取ったことと感じ取ったことを伝え合い、本時の学習課題をつかむ。</p> <p>S：「ソーラン節」は「ハイハイ」や「ドッコイショ」など、みんなで声を合わせた掛け声が聴こえるね。力強い感じがします。</p> <p>S：「刈り干し切り歌」は、一息でどこまで声が伸びているのだろう。音程が細かく変わるのも面白いね。</p> | <p>10分</p> | <p>・祭囃子の冒頭部分を聴いたり、リコーダーを使ってわらべ歌の節まねをしたりする活動を通して、既習の日本の音楽を想起させ、新たに学ぶ民謡への興味・関心を高める。</p> <p>・聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりに着目することができるよう、「聴き取ったこと」「感じ取ったこと」を分類して板書にまとめ、両者の関わりについて問い掛け、気づきを促す。</p> <p>◎音楽が生まれた背景について関心がもてるよう、発声の方法や歌詞の内容に着目して聴くように促す。</p> |
| <p>[本時のめあて]</p> <p>民謡のよさや面白さの秘密を見つけよう。</p> | | |
| <p>2 音や音楽の雰囲気を感じ取り、雰囲気が醸し出す理由を探りながら鑑賞する。</p> <p>○発声の方法や歌詞の内容に着目して、「ソーラン節」「刈り干し切り歌」を聴く。</p> <p>S：「ソーラン」のリズムはニシン漁の網を引く動きに合っているね。</p> <p>S：声をしっかり張らないと、仲間には聴こえないから、力強く声を出しているのかな。</p> <p>S：草を刈る鎌の柄がこんなに長いと、一振りするのに時間が掛かるから、声を引き延ばす長さも長いんだね。</p> | <p>15分</p> | <p>◎民謡と仕事との関わりを手掛かりに、音楽と生活や社会との関わりに出会うことができるよう、仕事の動きや歌う時の体の使い方を模倣するなど、体験的な鑑賞活動を設定する。</p> <p>◎民謡が暮らしの中で果たしている役割について関心がもてるよう、音楽と仕事の動きとの関わりについて気付いたことを話し合う。</p> <p>◎民謡の性格や役割と演奏される場面との関わりを見付けるため、気付いたことを「体の動き」「曲の雰囲気」「音楽を形づくっている要素」に分類してまとめ、互いの関連性について問い掛ける。</p> |
| <p>3 題材の課題をつかむ。</p> <p>○「ソーラン節」「刈り干し切り歌」</p> | <p>15分</p> | <p>・題材で追求することのイメージがもてるよう、鑑</p> |

を聴いて、感じ取ったことや気付いたことを話し合う。

S：音頭を取って歌う人と、掛け声で囃す人たちとのやり取りが楽しい。交互に歌うことで綱を引くりリズムを合わせる働きをしているね。

S：「刈り干し切り歌」は、一節を長く引き伸ばして、細かく音程を揺らして歌っている。ススキが生い茂っているところで仕事をしているから、声に飾りをつけて歌って自分の居場所をアピールしているのかな。

賞を通して気付いた民謡の特徴を生かして、いろいろな民謡を歌ったり、民謡が日本の歌らしく聴こえる秘密を探り、日本らしい旋律をつくったりして学習を進めることを伝える。

・感じ取ったことや気付いたことを確かめられるよう、繰り返し鑑賞する。

【題材の課題】

聴いたりつくったりしながら日本の音楽の秘密を見つけて、日本に伝わる音楽に親しもう

S：みんなが見つけたよさや面白さの秘密を意識して聴いたら、自分も同じように感じる事ができて楽しい。

S：仕事が楽しくなるような張りのある声の出し方を試してみたいな。

◇日本の音楽の曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解している。

〈発言・記述（知）〉

◇日本の音楽の旋律、音階、拍を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさを見だし、曲全体を味わって聴いている。 〈発言・記述（思）〉

4 学習のまとめをし、学びを振り返る。

○題材で学んでいきたいことを含めて、民謡の特徴についてまとめる。

【児童の振り返り】

☆民謡は、仕事や祭りなど人々の生活と深く関わりがあることが分かった。作業をまねしながら聴くことで、歌いながら楽しく仕事をしている様子が想像できた。

5分

・日本の音楽の特徴を「旋律」「拍」などを手がかりにして見付けることができたことや、人々の生活と音楽の特徴との関わりについて考えたことを確認し、次時の学習につなげる。

5 本時の展開 (3/5)

- (1) ねらい 前時まで学習した民謡音階、都節音階の特徴を生かし、それぞれの音階のよさや面白さを探る活動を通して、表現したい旋律について思いや意図をもつことができるようにする。
- (2) 準備 ミニグロックン、リズムパターンを示した掲示物、ワークシート、振り返りシート
- (3) 展開

| 学習活動 S：予想される児童の反応 | | 指導上の留意点及び支援・評価 ◇評価 ◎研究上の手立て |
|--|-----|---|
| <p>1 学習に臨む雰囲気をつくる。</p> <p>○ミとラの二つの音を使って、旋律づくり遊びをする。</p> <p>S：同じリズムでも、音の組み合わせ方を変えると、旋律の感じが変わるね。</p> <p>S：「ラ」で終わると終わる感じ、「ミ」で終わると続く感じがするね。</p> | 7分 | <p>○旋律づくりのヒントとなるように、教師や友達がつくった旋律を模倣する。</p> <p>○いろいろな旋律に触れられるよう、二人組、三人組と学習形態を変えて活動する。</p> |
| <p>2 本時のめあてをつかむ。</p> <p>○音の一つ増やして三つの音（ミ・ファ（ソ）・ラ）で同様に旋律遊びをする。</p> <p>○音の上がり下がり例を提示し、それぞれから感じるイメージを出し合う。</p> <div data-bbox="172 1066 660 1196" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>のぼり⇒だんだん盛り上がる くだり⇒だんだん消えていく ゆれる・山・谷⇒民謡やうたの「飾り」</p> </div> | 8分 | <ul style="list-style-type: none"> ・前時までの五音音階の学習を想起し、音階の違いによって、つくった旋律の感じ方も変わることを確認する。 ・旋律づくりのヒントとなるよう、既習の民謡や子守歌を想起し、音高の上がり下がりや声の揺らし方や節回しなど、発声方法の変化から感じるイメージを確認する。 |
| <p>[本時のめあて] 音階を選び、音の上がり下がり工夫して、「日本を紹介する旋律」をつくろう。</p> | | |
| <p>3 思いや意図に合った表現にするために、音楽を形づくっている要素と関連づけながら表現を探る。</p> <p>○三人組になり、順番に試しながら各自の旋律をつくる。</p> <p>S：日本のお祭りについて音楽で伝えてみたいから、民謡音階を使いたいな。</p> <p>S：都節音階から受けるお箏のイメージで、神社に流れているような心が静かになる音楽にしたいな。</p> <p>○それぞれのつくった旋律を聴き合い、模倣したりリレーしたりしてつなげ方を試す。</p> <p>S：まねっこすることで、旋律が繰り返されて、みんなで回りながら盆踊りを踊っている感じに聴こえるね。</p> <p>S：リレーをしてみたら、つなぎの部分がないんだかすっきりしなかった。つなぎ方</p> | 25分 | <p>◎音楽と生活や社会との関わりについて考えを深めながら旋律づくりができるよう、「初めて日本にきた外国の友達に日本の四季や暮らしのよさを紹介する」という場面を設定する。</p> <p>◎つくりたい旋律のイメージを具体的にもつことができるよう、四季の移り変わりや暮らしなどの「日本らしさ」「日本のよいところ」について問い掛け、出されたことを板書したり、日本らしさを象徴する写真や絵を提示したりする。</p> <p>◎三人組でまとまりのある音楽をつくることできるよう、音階から受けるイメージを手がかりに、グループ内で使用する音階を統一するように促す。</p> <p>・旋律づくりのイメージが膨らむよう、旋律を模倣したり、リレーの順番を入れ替えたりすることで感じが変わるかどうかを試行するよう促す。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>にもコツがありそうだな。</p> <p>○中間発表で互いに聴き合う。</p> <p>S：民謡音階でつくった旋律は、昔話の始まりのような感じがして、昔話を紹介する場面に合うね。</p> <p>○各自の旋律を仕上げ、グループでつくりたい「日本を紹介する旋律」のテーマを決める。</p> | <p>・各自の旋律づくりに生かせるよう、中間発表で感じ取った音楽のよさや面白さを全体で共有・共感させる。</p> <p>◎つくった旋律のよさや面白さと、テーマとなる日本らしさがつながるよう、グループでミニ発表会をさせ、それぞれの旋律からどんなテーマが思い浮かぶか意見交流するよう促す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇日本の音楽の旋律、音階、拍を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽への構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</p> <p style="text-align: right;">〈観察・演奏聴取（思）〉</p> </div> |
| <p>4 学習のまとめをし、学びを振り返る。</p> <p>【児童の振り返り】</p> <p>☆民謡音階を使って、低い音から高い音へ上るように音を並べると、「八木節」の歌い始めのようになった。この旋律にこたえるような旋律をつなげたら、呼びかけ合って楽しく仕事をする仕事歌のよさが伝えられそうだな。</p> <p>☆都節音階を使うと、お箏の音が似合う音楽になった。「さくらさくら」や「うさぎ」のように、しっとりと日本の四季が伝えられたらいいな。</p> | <p>10分</p> <p>・音階の特徴を生かし、音の高さの上がり下がり工夫することで日本を紹介する旋律をつくることのできたことを確かめ、もっと工夫してみたいことを問い掛け、本時の学習をまとめる。</p> <p>◎音楽と生活や社会との関わりを発見したことを自覚し、音楽のよさや面白さを実感できるよう、各自で工夫してつくった日本を紹介する旋律からどんな場面がイメージできたかを問い掛ける。</p> |

5 本時の展開 (5/5)

- (1) ねらい グループの旋律を演奏し、互いに聴き合うことを通して、日本の音階による旋律のよさや面白さを味わい、伝統や文化について考えたことを話し合う。
- (2) 準備 ミニグロッケン、リズムパターンを示した掲示物、ワークシート、振り返りシート
- (3) 展開

| 学習活動 S：予想される児童の反応 | | 指導上の留意点及び支援・評価 ◇評価 ◎研究上の手立て |
|---|-----|---|
| <p>1 学習に臨む雰囲気をつくる。</p> <p>○民謡音階、都節音階を使い、五つの構成音を用いて即興的に旋律を演奏する。</p> <p>S：ファ・ラ・シ・ラ・ファと、山になるように音を並べると、コロコロ転がった感じがするね。</p> <p>S：ミで終わると、余韻が残る感じがして日本らしくて味わい深いね。</p> | 5分 | <ul style="list-style-type: none"> ・音の上がり下がりや丸滑に試せるよう、ミニグロッケンの音板は、使用する音を残して外す。 ・表現したい旋律のイメージが想起できるよう、音階の構成音から受ける感じ方や、音高の上がり下がりから受ける感じ方の違いを確かめる。 |
| <p>2 本時のめあてをつかむ。</p> | 2分 | <p>◎音楽と仕事や自然などとの関わりに着目できるよう、前時までの学習を想起させ、各自でつくった旋律からどんな場面が想像できたかを問い掛ける。</p> |
| <p>[本時のめあて] みんなのオリジナル「日本を紹介する音楽」のよさや面白さを見つけよう。</p> | | |
| <p>3 グループのオリジナル「日本のよさを紹介する旋律」を発表し、表現の高まりを共有・共感する。</p> <p>○発表するグループは、工夫した点を意識して発表するようにし、聴くグループはよいと思ったところや、どんな場面が思い浮かんだかを伝える。</p> <p>S：ソーラン節のように、同じリズムが繰り返されているところが面白いね。都節音階でつくられているから、どこかしっとりとした感じがするね。</p> <p>S：呼びかけとこたえのようにつながっているところが、お互い声を掛け合って歌う民謡のような感じがするね。</p> <p>○オスティナート（簡単な音型の繰り返し）を伴奏に、各グループの旋律をつなげて演奏する。</p> <p>S：都節音階の旋律をつなげて、日本の四季の移り変わりを表現できた。自然音を楽器の音に表すことは、日本特有の文化なんだね。</p> <p>S：民謡音階の旋律は、つなぎ目に合いの手を入れると、みんな仕事しながら</p> | 30分 | <ul style="list-style-type: none"> ・演奏者と聴き手がお互いに音楽のよさや面白さを感じ取りながら演奏したり聴いたりできるよう、発表者の工夫点を伏せて演奏し、演奏後にどんな場面が想像できたかをクイズ形式で聴き手に問い掛ける。 ・聴き手が音高の上がり下がりを感じ取りながら聴くことができるよう、旋律の音の動きを示したシートを示しながら発表する。 <p>◎音楽と生活や社会との関わりについて確かめることができるよう、各グループの旋律の発表から、どのような日本らしさや場面が想像できたかを問い掛け、一連の流れになるようにつなげて演奏する。</p> <p>◎つくった旋律の雰囲気を味わうことができるよう、それぞれの場面に合った動きを付けたり、掛け声をかけたり、楽器で合いの手を入れたりしながら演奏する。</p> |

| | | |
|---|-----------|---|
| <p>歌う場面が想像できるね。</p> | | <p>◇日本の音楽の音色や旋律、音階、拍などの特徴について、それらが生み出すよさや面白さなど関わらせて理解するとともに、思いや意図に合った音楽表現をするために必要な、全体のまとまりを意識して音楽をつくる技能を身に付けている。〈演奏聴取（技）〔記〕〉</p> <p>◇日本の音楽に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞や歌唱、音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。</p> <p style="text-align: right;">〈観察・演奏聴取（態）〔記〕〉</p> |
| <p>4 学習のまとめをし、題材の学びを振り返る。</p> <p>【児童の振り返り】</p> <p>☆日本の伝統的な音楽が、なぜ日本らしく聴こえるかという秘密は、日本固有の発声の仕方や楽器の音、音階にあることが分かった。また、仕事歌や祭り歌、子守歌など生活の場面と深く関わってつくられてきたものであることも、学習を通して感じる事ができた。これからも、日本の音楽についてもっと詳しく知り、大切に受け継いでいこうと思った。</p> | <p>8分</p> | <p>・各地域に伝わる民謡を聴いたり、歌ったり、日本の音階を使った旋律をつくって演奏したりすることで日本の伝統的な音楽に親しむことができたことを確かめ、日本の音楽について学んだこと、思いを新たにしたことについて、また、学んだことをどのように生活に生かしていきたいかを問い掛け、題材全体をまとめる。</p> |